

# いの流水俳壇

## 「当季雑詠」

半夏生玄関に置く男下駄

友章 水月選

（評）玄関をふと見ると男下駄を脱いでいる。玄関に履物を脱いでいるのは当たり前のことであるが、最近では余り見かけない男下駄である。庭近くにある半夏生の葉が半分白くなつており涼しさを感じさせる。あえて作者は見たまま素直に句にしたのである。

季語の半夏生はサトイモ科の植物で七月初め葉の半分程白くなる。そのため半夏生の名がある。「半夏半作」との諺もある。このころ田植えをすと収穫が半分になると言われる。

藤田 湘子

燕の子口ばしばかり大きかり

竹崎たかひろ

（評）燕の子が孵ると親燕は雄も雌も入れかわり立ちかわり雛に餌を運ぶ。親燕が餌を口に巣にもどると巣の中の雛は皆一斉に口をいっばい開け餌を強請る。それが口ばかりに見え、口ばしの大きかりと言つており、その様子が見えるようである。燕は人間に最も親しい野性の鳥で種子鳥似北の全国で繁殖する。六月ともなれば雛も飛翔を始め、やがて空中を翻るように飛ぶ燕返しである。また地上や水面をすれすれに飛ぶ姿は鮮やかである。

鈴山 實

水引草すくつと一穂備前の壺

伊藤 萩甫

（評）水引草が一本花瓶に生けられている。床の間であらうか玄関であらうか。その一輪差しの壺は備前焼きである。暑い最中涼しさを誘っている。水引草は山野草でタデ科の多年草。枝に数条の細長い花軸を伸ばし花をたくさんつける花軸を上から見ると赤く、下から見ると白く見える。

○水引きの花咲き土岐は窯どころ

井上 光枝

ジャムパンと心太合う昼餉かな

岡村 嘉夫

（評）昼食にジャムパンと心太を食べたのである。卵と野菜、ハムやソーセージなどなら普通であるが、パンと心太である。余り聞いたことがないが本人は真面目によく合うと言っているのうまかつたかなと思つた。

心太（心天）は海藻の天草を煮て型に入れ冷やし固めたもので、辛子醤油、酢醤油や黒蜜を掛けて食べ、かつては庶民の夏の嗜好品の一つであった。なお寒天はこの天草を煮て凍らせたもので小豆、砂糖を入れて羊羹を作る。

○わが妻に過ぎたる目鼻どころてん

寺島夾竹桃

二句抄

行商の人も加わり鮎談義 川村 博子

咲き満ちて雨粒重き濃紫陽花 國田 貞子

万緑もかくす朝露山水画 國田 貞子

駆込みて洗濯物抱くも電まざり 片岡 包女

七月や老いて逢瀬の文を書く 包女

子供らの夢は大きく星まわり 包女

ほうたるや千の棚田の水鏡 間 浩太

まず緞をねぎらい洗ふ夏夕焼 間 浩太

ひとり飲むビールと歩む我余生 森岡 照月

古代より世のなりゆきや大賀蓮

古時計梅雨の一日を刻みけり 大川 節弥

梅雨の憂さ小さな旅に捨てに行く

虹の足たずねてみたし夢持ちて 岡村 嘉夫

大青田青を引き出すぬか雨 津田 久美

梅雨空を眺めセールの靴 竹崎たかひろ

万緑や樹間に覗く滝の音 友章 水月

母の背の丸き記憶や合飲の花

名句鑑賞

友章水月

面白うてやがて悲しき鵜舟かな 松尾 芭蕉

鵜が鮎を取っている様子を見て面白かつたがやがて悲しくなつたのである。

今から326年前の1688年の7月、芭蕉45歳のときの句である。

芭蕉は弟子の杜国と京都で別れ岐阜の連衆と稲葉山の裾から長良川の鵜飼を見物した。篝火の中、数羽の鵜を操りながら鵜匠は声を掛けつつ鵜を引き寄せ喉から鮎を吐き出させる。篝火に照る川面、鵜匠の鵜を操る修羅の様子は壮観であり感動的である。飼いなされた鵜の宿命とはいへ一回呑みこんだ鮎を吐き出させるのは衰れを誘う。面白いが悲しいと対立する感情、旅をする流浪の芭蕉の人生、身のわびしさを自分と重ねてみたのであろうか。仁淀川でも戦前はこの鵜飼があった。篝火の鵜舟が五、六艘川を下りながら鮎漁をしていたのを思いだす。

次題 「当季雑詠」五句  
締め切り 毎月五日

投句先

社会教育課

いの町3597

画 89312012

## 今月のごども川柳

いじめはね ひとのこころを きずつける

川内小 3年 坂本 心あ

（評）小学3年生の川柳がずつしりと心にひびく。いじめてもいじめられても深い傷が心に残る。だからこそ、みんな仲良くしたいのです。

うでずもう 負けても勝つても 楽しいよ

川内小 4年 みやわき 大よう

（評）うでずもうしているのはお友達、それとも家族。そうです。うでず、負けても勝つても楽しい。楽しい遊びの中で、勝負の厳しさ、お友達や家族とのうれしつながら、でも、きあがる楽しい川柳がうれしい。

ずこうしつ おもいでへのや なつかしい

川内小 2年 北添 はるな

（評）図工大好きな小学生が見えてくる。思ったように絵が描けなかったり、ハサミが使えないなどの思い出。いっばい。それもこれもみんななつかしい。この気持ちを大事にしながらか成長していくものである。

つなみはね いっきにいのちを うばいとる

川内小 2年 ちだ みなみ

とけいさん 毎日ばかりたいへんだ

川内小 4年 岡村 あやめ

お父さん いつもおしごと がんばって

長沢小 2年 山中 きようすけ

夏が来る プールの後は かきごおり

川内小 4年 古谷 ねいろ

春休み しゅくだいがないから らくちんだ

川内小 3年 田村 和聡

運動会 体そう服が あせくさい

川内小 4年 松岡 りん

もうすぐだ 夏休みがね まつてるよ

川内小 2年 よこばたけ ゆう

※「こども川柳」は町内全小学校の児童の皆さんを対象に募集しています。次回提出締め切りは9月10日（水）です。たくさんの方の応募をお待ちしています。（応募は各小学校を通してお願いします。）

※選評は、川柳連会の皆さんにお願いしています。